



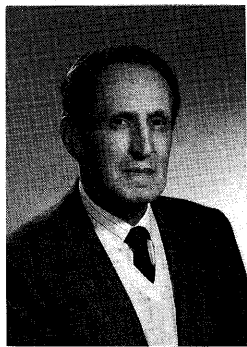
(1999年12月)

## 【新学会誌 JGPP の外国人原著編集委員の紹介】

日本植物病理学会報 (Annals of the Phytopathological Society of Japan) が平成12年より英文誌 Journal of General Plant Pathology (JGPP) に引き継がれることになりましたことは、会員の皆様にはすでにご承知と思いません。JGPP の発刊にあたり、各研究分野でご活躍の次の外国人研究者5名に原著編集委員に加わっていただくことになりました。Dr. Antonio Graniti (糸状菌), Dr. Noel T. Keen (細菌病), Dr. K. Sivasithamparam (土壌病害), Dr. Olen C. Yoder (薬理関係) および Dr. Milton Zaitlin (ウイルス病) が、それぞれの方と親交を深めておられた先生方のご依頼に対してご快諾くださった次第です。ここに関係者のご貢献に対して敬意を表しつつ、各位のプロフィールを紹介いたします。

(JGPP 編集委員長 眞山滋志)

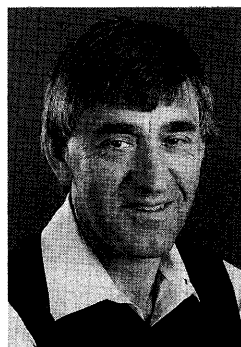
### 1. Dr. Antonio Graniti のプロフィール



Dr. Antonio Graniti 氏は、イタリア、フローレンス出身。1950年フローレンス大学を卒業、1967年からバリ大学教授。1970～1975年にはイタリア科学院毒素・菌類毒素研究所の所長を、また1975～1980年には農務省植物病理学研究所の所長を兼務され、同国の植物病理学発展の中心的役割を果たされている。Graniti 教授の研究は地中海地域、亜熱帯作物、特にブドウ、オリーブ、カンキツ、アーモンド等の菌類病の記載から菌類毒素の病理学的意義まで多岐にわたり、その業績は250編以上の論文・著書に要約されている。なかでも、感染生理学に対する貢献は高く評価されており、植物疾病の特異性、菌類毒素の病原性への関与、特に A. Ballio 教授との共同研究により、菌類毒素の構造とそれらの生理活性について顕著な業績を挙げられている。NATO 研究集会も主催され、地中海植物病理学会連盟会長、イタリア植物病理学会誌 *Petria* の編集委員長、

*Phytopathologia Mediterranea*, *Plant Pathology* などの編集委員としても活躍。1987年にはイタリア科学アカデミー会員に推挙されている。

### 2. Dr. Noel T. Keen のプロフィール



Dr. Noel T. Keen 氏はアイオワ州出身、アイオワ州立大学において学士・修士を修了、1968年ウィスコンシン大学にて Ph.D. を取得。同年よりカリフォルニア大学 (Riverside) 植物病理学科助教授、副教授を経て1978年より教授、1997年より Distinguished Professor になっておられる。

Flor の提唱した遺伝子対遺伝子仮説を分子レベルで実証するため1975年エリシター・レセプター説を提唱、その後のダイズの病原細菌 *Pseudomonas syringae* pv. *glucinea* から非病原性遺伝子を世界で初めてクローニングし、それよりエリシター分子 syringolide を単離同定、そのレセプター分子も同定して同細菌病における品種特異的抵抗性の発現基盤: gene-for-gene 説 (AvrD for Rpg4) を実証したことは有名。また、Keen 教授は発病因子 (ペクチン酸リアーゼ各アイソザイム) 生産遺伝子を世界で最初にクローニングし、さらにこれらの立体構造をも明らかにして分子植物病理学の方向付けを行った。1991年アメリカ植物病理学会 Fellow, 1995年同学会 Ruth Allen 賞, 1996年米国科学推進協議会 Fellow, 1997年には米国 National Academy of Sciences の Elected Member に推挙された著名な分子植物病理学者。Phytopathology, Molecular Plant-Microbe Interactions, Journal of Phytopathology の Editor を務められ、現在も Plant Physiology および Journal of Bacteriology の Editor である。同大学植物病理学科長などを歴任、現在同大学 Biotechnology Center の所長。1999年開催の日米セミナーの Organizer であり、親日家で友好的な方で、Keen 教授の薫陶を受けたり、学術交流を深めている我が学会員も多い。

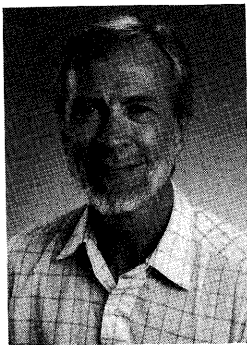
## 3. Dr. K. Sivasithamparam のプロフィール



Dr. K. Sivasithamparam 氏は現在、西オーストラリア大学 (Nedlands) 土壌化学および植物栄養化学科、植物病理学研究室の教授。1971年より西オーストラリア大学 (パース) にて Dr. C.A. Parker (現名誉教授) のもとで、コムギ立枯病の生物防除に関する研究に従事され、1977年に Ph.D.

を取得。以来同大学にて西オーストラリアにおける大規模農業、園芸および自然生態系における土壌病害防除に関する研究を行っておられる。現在までに糸状菌、細菌、線虫およびウイルス病の生物防除に関する研究で72名の博士論文を指導されている。194編の学術論文を発表されており、菌学、植物病理学の講義を担当。

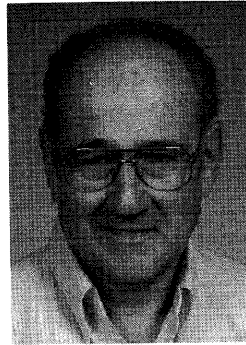
## 4. Dr. Olen C. Yoder のプロフィール



Dr. Olen C. Yoder 氏はミシガン州出身、ミシガン州立大学 Robert P. Scheffer 教授のもとで、1968年に MS, 1971年に Ph.D. の学位を取得。引き続いて同氏はコーネル大学助教授 (1971~1977)、副教授 (1977~1983)、教授 (1983~) となり、植物病原菌毒素、特に宿主特異的毒素の研究

では世界的に卓越した業績を挙げられている。1999年には Novartis Agricultural Discovery Institute の Plant Health 部門部長に併任となり、企業活動にも参加。Yoder 教授の業績は宿主特異的毒素作用の分子機構、毒素合成系の遺伝子解析、毒素生産菌の疫学的研究、病原菌類の進化など多岐にわたり、その成果は140編の著書、論文等に発表されている。1990年にはアメリカ植物病理学会 Fellow を受賞、世界で屈指の植物病理学者として高く評価されている。我が国の植物感染生理学、特に分子生物学的研究にも多大の貢献をされ、毒素研究のリーダーである。Plant Disease, Physiological and Molecular Plant Pathology, Molecular Plant-Microbe Interactions などに加え、Fungal Genetics, Current Genetics の Editor として活躍。また、NSF, USDA の科研審査委員、バイオテクノロジー関連政府委員も務められた。極めて友好的な方で我が学会員の中にも Yoder 博士の薫陶を受けた方も多い。

## 5. Dr. Milton Zaitlin のプロフィール



Dr. Milton Zaitlin 氏は、米国コーネル大学植物病理学科の教授およびバイオテクノロジー部門の副所長。1949年カリフォルニア大学 (Berkeley) を卒業 (植物病理学)、1954年 UCLA にて Ph.D. を取得されている。ミズーリ大学、アリゾナ大学を経て

1973年より現在までコーネル大学の教授を務められ、植物ウイルスの基礎研究分野の第一線で活躍されている。Virology (1972~1984) および Molecular Plant-Microbe Interactions (1987~1990) の Senior Editor を務められ、1978年アメリカ植物病理学会の Elected Fellow に推挙されている。American Society of Virology の創始者の一人であり、NSF, NIH の Panel Member など多数の要職を歴任。多数の著書および原著論文を発表されている。

## 【研究助成募集】

財団法人タカノ農芸化学研究助成財団・平成12年度研究助成対象者募集要領

本財団は、農学、特に農芸化学 (生物資源等) に関する学術研究を助成し、もって学術研究の発展に寄与することを目的とし設立されました。

本年度も、農芸化学等に関する研究を行っている大学等の研究機関の研究者に対し、研究助成金を交付いたします。特に、若手研究者への枠を設け、今後の当該分野の研究促進に役立ちたいと考えています。

平成12年度は、次の要領で助成対象者を募集します。

## 1. 研究課題

- (1) 穀類並びに豆類の栽培・育種に関する研究
- (2) 穀類並びに豆類の品質・成分並びに栄養生理等に関する研究
- (3) 穀類並びに豆類の利用および加工技術に関する研究
- (4) 納豆菌等微生物の特性・生成酵素等に関する研究

## 2. 研究助成対象者

- (1) 大学および短大の研究者 (大学院生も含む)
- (2) 国立試験研究機関の研究者
- (3) 公立試験研究機関の研究者
- (4) その他本財団が適当と認めた研究者

## 3. 助成金額

一般研究者 1件 100万円を5件程度

若手研究者 1件 50万円を5件程度 (昭和35年4月1日以降に生まれた者)

4. 交  
平  
5. 申  
年  
用  
請  
6. 申  
千  
助  
タ  
T  
【  
学  
した  
いた  
す。  
削

4. 交付時期

平成 12 年 5 月予定

5. 申請手続き方法

当財団所定の申請用紙に必要事項を記入し、平成 12 年 3 月 20 日 (必着) までに送付願います。なお、申請用紙は、郵送用切手 (140 円) 同封のうえ、下記宛にご請求ください。

6. 申請書請求先および送付先

〒 311-3411 茨城県東茨城郡小川町野田字大沼頭 1542  
(財)タカノ農芸化学研究助成財団  
タカノフーズ(株)内 財団事務局  
TEL: 0299-58-3805 FAX: 0299-58-3847

【会員の動静】

学会ニュース第 10 号 (会報 65 巻 4 号) に掲載いたしました会員の動静のうち、下記の記事は誤りでしたので訂正いたします。ご迷惑をお掛けしたことをお詫び申し上げます。

削除: 高士祥助 H 11.3 退職 (滋賀県農業試験場長)

編集後記

本号には平成 12 年から発行する英文専門誌 (JGPP) の外国人編集委員 5 名のプロフィールを紹介いたしました。会員の皆様には和文誌・英文誌ともに気軽に投稿くださいますようお願いいたします。

(編集委員長代理 植松 勉)

会員のご逝去

名誉会員の赤井重恭氏は平成 11 年 10 月 16 日に逝去されました。ここに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。